

公益社団法人 私立大学情報教育協会
2022年度第5回短期大学会議教育改革ICT運営委員会議事録

- I. 日時 令和5年3月18日(土)10:00~12:00
場所 Zoom 会議室
- II. 出席者 戸高委員長、三田委員、西岡委員、後藤委員、大重委員、治京委員、早坂委員
及川先生(山野美容芸術短期大学)、深町先生、八代先生(和泉短期大学)
(事務局 井端事務局長、中村、山田)

III. 検討事項

1. 令和4年度の地域貢献支援事業コンソーシアム試行事業の結果確認について

(1) 高齢者支援事業

- ① 2022年度は、昼休みの活用が困難であることから断念し、前期の授業時間帯に5回にわたって実践女子大学および実践女子大学短期大学の学生が対面で専門家からインタビューと動画編集の方法を学んだ。その講座の様子を撮影し、編集してYouTubeの限定公開を行い、山野美容芸術短期大学の学生がオンデマンドで動画編集の方法を学んだ。どちらの短期大学の学生も各自が制作した友人紹介の動画をクラウド上に保存し、専門家からコメントを受けるという機会を設けた。
- ② さらに10月には、土曜日に高齢者6名を実践女子大学渋谷キャンパスに招き、実践と山野の学生が高齢者を迎えて、対面でインタビューと撮影を行い、それを基に制作したインタビュー動画を11月にYouTube公開してあらかじめ視聴いただき、Zoomで高齢者にコメントをいただく機会を設けた。対面の他にオンデマンド、オンライン、クラウドを組み合わせることで、活動を実施することができた。

前期：実践学生6名(教室で対面講座参加)、山野学生15名(自宅でオンデマンド受講)
プロに学ぶインタビュー動画作り講座(各回15:00から16:00)
【第1回(5月23日)】ペアになって、相手の自己PR映像(素材として3分程度)を撮影・編集
【第2回(5月30日)】インタビュー映像(3分)を作る「あなたにとってのコロナ禍」3人グループで、質問内容を検討
【第3回(6月6日)】撮影素材の文字起こしと、使用部分の検討・構成を修正
【第4回(6月13日)】編集を行い、zoomで個別に講師のプレビューを受ける、テロップやBGMをつけて完成
【第5回(6月20日)】発表、振り返り
【山野学生向け動画づくり講座(7月9日)】山野学生21名

後期：実践学生6名、山野学生15名、高齢者6名
【第1回(10月1日)】
10:00-13:00(動画作りの基礎)
14:00-14:30インタビュー動画についての専門家レクチャー
14:30-15:00インタビューの内容をグループで考える
15:00-16:00高齢者へのインタビューと撮影、交流
第2回までの期間は、インタビュー動画制作と専門家のアドバイス
【第2回(11月21日)】インタビュー映像(3分)について高齢者との意見交換と交流

- ③ 接点のない高齢者と対面およびICTを通して。参加学生は企画力・協調性・時間管理能力・発信力・ITスキル・コミュニケーション力などの社会人基礎力の向上につながった。2022年度は「baba lab」や「地域デビュー楽しみ隊」というICTに長け、活発な活動を行っている高齢者団体とのつながりを強めることができた。学生・高齢者双方が刺激し合う様子がみられた。

④ まとめ

短大生の課外活動時間の確保が難しい中、実践の学生、山野の学生、高齢者という3者をつなぎ、動画制作の専門家との調整も必要となるため、スケジュールリングは困難を極めた。こうした困難を克服するため、対面の他にオンデマンド、オンライン(zoom)、クラウドに動画保存といった方法を組み合わせ、また動画をYouTube公開してあらかじめ視聴してもらうなどの工夫を行った。

こうした活動を継続していくには、一つの短期大学で完結するのではなく、複数の教育機関と異世代組織、自治体が連携することで、可能性がより一層広がっていくことを感じた。今後も大学間・異世代者間・自治体や民間団体の連携を強化し、SDGsの「パートナーシップで目標を達成しよう」の実現を目指すことにしている。

(2) 地域価値発見事業

- ① 4回のオンライン交流を踏まえて、5回目に発表会を開催した。回を追うごとに各校とも他校のプレゼンテーションに刺激され、地域性や学科特性がブラッシュアップされていた。その結果、大阪夕陽丘学園短期大学では他学科である製菓クリエイトコースの先生と共同したフランス菓子の制作、和泉短期大学では幼児保育の目線でのマラカスや貝殻のペン立ての制作から幼児期から真珠に親しむためのストラテジーの提示、別府大学短期大学部では地域特性を生かしたプレゼンテーションから温泉の素やチキン南蛮など地域に根差した作品が制作された。6回目の総括と次年度に繋げるでは、事前アンケートを基に、各校が他校をリスペクトした意見が出され、分野横断的コミュニケーションから「学びの連鎖」や「学びの化学反応」などの新たな価値発見を示すことができた。

回数	開催日	テーマ	司会進行	ファシリテーター
1回目	11月10日*	オンライン(Zoom)で繋がる!	大阪夕陽丘学園短期大学 治京	教員全員
2回目	12月15日*	お互いを知ろう!	大阪夕陽丘学園短期大学 学生さん	治京
3回目	1月12日*	アコヤ真珠および貝殻を調べてみよう!	和泉短期大学 学生さん	深町・八代先生
4回目	1月26日*	テーマを決めよう!	別府大学短期大学部 学生さん	衛藤・後藤先生
5回目	3月2日**	発表会	志學館大学 大重先生	教員全員
6回目	3月9日***	次年度に繋げよう!	志學館大学 大重先生	教員全員

*18時~18時30分、**13時~14時、***13時~13時45分

- ② 4校のオンライン環境は、Zoomを用いることで、あらゆるデバイスからのアクセスを簡便にかつ円滑に繋がることのできた。また、Google Classroom を利用することで、事前の説明動画の提出と視聴、当日不参加者へのオンデマンド配信の提供、アンケートの実施による振り返りが円滑にできた。

③ 活動の詳細

参加学生(全体 19名)： 大阪夕陽丘学園短期大学 (7名)
和泉短期大学 (5名)
別府大学短期大学部 (7名)

参加教員(6名)： ファシリテーター又は司会
大重康雄(志學館大学)、治京玉記(大阪夕陽丘学園短期大学)、
後藤善友・衛藤大青(別府大学短期大学部)、深町和哉・八代陽子(和泉短期大学)

④ 参加学生から寄せられた特徴的な感想(抜粋)

<学びの協同化について>

* 他の学校・学生と繋がることのできる機会はなかなかないと思います。そういう中で、全国各地にいる学生とひとつのプロジェクトに取り組むということはとても面白いことだと思いました。

<規格外真珠について>

* 素人が見ると規格外真珠もとても綺麗で、価値は充分に感じることができました。販売できない野菜や果物も中身の価値は変わらないのと同じ感覚なのかなと思います。例では、パールポークによる身体への影響などに、とても興味をもちました。

<真珠価値探求プロジェクトに参加して>

* 真珠をどうやって広めていけばいいのかを、他大学の方とそれぞれの特徴を活かしながら考えられたことがよかった。

<真珠価値探求プロジェクトの改善点について>

* プロジェクトゴールを明確にしてほしいです。目的は志摩市の価値創造ということでしたが、具体的なゴール(ステークホルダーが誰なのか、どんな成果物を期待しているのか)がないままスタートしたので、どこに向かえばいいのかをぼんやりしてしまいました。

* 議事録を残したらよいのではと思いました。次の回以降の資料作成やミーティング時の振り返りに参考になると思います。議事録作成者は各回大学で持ち回ればよいと思います。

<次に繋ぐための学生からの意見・感想>

* 今回の真珠プロジェクトでたくさんの意見が出て、本当にワークショップのようなものを感じたという思いになった。例えば、3大学にそれぞれの大学の考えたものを並べてみて、ほかの学生に見せるだけでも真珠の存在や価値を伝えることができると思うので、「真珠を布教するために」ということを目標として考えて行けたらいいなと思った。

* 次の課題は、「コミュニケーションをとる」ということかなと思います。今回は、各校それぞれが案を出して実行するという形でしたが、次の時は各校が案を出しそれぞれが1つのことを完成させるというのでもいいかなと思いました。

⑤ まとめ

真珠価値探求プロジェクトを実施して、真珠に関する知識の少ない学生が、プロジェ

クトを通じて独自の作品を考え、成長を実感した。また、異なる分野や他大学の学生との交流から刺激を受け、コロナ禍でのサークル活動がない中でも仲間と集まること自体を楽しんでいた。さらに、学生達が新たな価値を見出すために意見や資料を交換しながら、異なるバックグラウンドを持つ学生同士が話し合い、提案を考え出した本プロジェクトは貴重な経験であった。

2. 短期大学教育改革 ICT 戦略会議の計画について

社会問題の課題解決を通して、「市民としての自分らしさ」に気づかせる本協会の事業は学生から高い評価を得ていることに鑑み、コンソーシアム活動に多くの短期大学が今後も参加できるよう、来年度の「短期大学教育改革 ICT 戦略会議」で仔細を報告し、地域貢献支援活動を普及・推進していくための条件や課題、課外授業のノウハウ、学修成果などについて意見交流することになった。

3. 来年度コンソーシアムの取組みについて

① 高齢者支援事業は、これまで短期大学の課外活動として 2 校で継続してきたが、来年度以降費用面などの負担を伴うことから継続していくことが困難な状況にあるので、コンソーシアム活動を休止することを考えている。

② 地域価値発見支援事業は、「真珠探求プロジェクト」のコンソーシアム活動を中心的に進めてきた短期大学の参加が困難になったことと、高齢者支援事業に参加の短期大学が新たな観点で地域価値発見支援事業を実施している点も踏まえて、改めてコンソーシアム活動の在り方を来年度に再構築する予定にしている。

4. その他(今後の日程)

今回は、令和 5 年 6 月 26 日(月)午後 6 時に開催し、戦略会議に向けた報告の準備等を中心に検討することにした。